

シラバス (授業計画)

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
税務会計特論	1・2年生	選択	2単位	春日 克則
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>事例を研究することで、税務会計が課税所得計算の領域において、どのような特徴を有しているかを探るものである。税務会計は、企業会計、租税法、商法・会社法と密接に関連している。そこで、税務会計がこれらの学問領域に還元される単なる技法なのか、それとも独自の所得計算構造を有しているのか(有しているならその内容)について、事例(判例)研究を通じて、具体的に理解することを目標としている。</p>				
<p>授業の概要</p> <p>税務会計は、単なる所得計算のためのパッチワーク的な技法であるのか、あるいは企業会計や租税法という隣接する諸領域とは異なる独自の理論体系を有するものなのかについて、非営利法人の収益事業を含む事例研究を通じて明らかにして行く。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 会計学との関わりから税務会計の特質を考える</p> <p>第3回 「企業会計原則」と税務会計との関係</p> <p>第4回 事例研究「リースの税務処理(福岡地裁)」「商品券の税務処理(名古屋地裁)」</p> <p>第5回 事例研究「大竹貿易事件」</p> <p>第6回 事例研究「オリックス銀行事件」</p> <p>第7回 事例研究「ビックカメラ事件」</p> <p>第8回 税務会計と企業会計との境界線</p> <p>第9回 事例研究「レーシングカー事件」「ホステス源泉徴収事件」「武富士事件」</p> <p>第10回 事例研究「治験事件」「流山事件」</p> <p>第11回 事例研究「ペット葬祭事件」</p> <p>第12回 法人区分と「所得の金額」の計算</p> <p>第13回 独立行政法人と公益法人の会計基準</p> <p>第14回 非営利法人の資本概念</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 試験等</p>				
<p>履修上の留意点、準備学習等(事前・事後学習)</p> <p>(留意点) 学部レベルの財務会計(会計学)の知識を有すること。</p> <p>(準備学習)</p> <p>事前: 毎回、事前に資料を配付するので当該資料を学習すること。必要であれば、参考書で補いながら疑問点を整理して授業に臨むこと。(各回2時間)</p> <p>事後: ほとんどの事例が、最高裁まで争われた事件であるので、講義中はポイントのみを検討することになる。そこで、地裁、高裁を含む判決の全文を判読することにより、さらに理解が深まる。(各回2時間)</p>				
<p>テキスト</p> <p>事前にプリントを配布する。</p>				
<p>参考書・参考文献・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中里実他編『租税判例百選[第6版]』有斐閣 ・金子宏『租税法』弘文堂 ・富岡幸雄『税務会計学原理』中央大学出版部 ・中里実『金融取引と課税』有斐閣 				
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>課題50%と試験50%の結果による評価で、60%以上を合格とする。</p>				